

平成26年度スーパーバイザー事業報告書

研究テーマ

「自信を持って思いを伝え合える子どもの育成

～言語活動の充実による学力向上を目指して～」

久米中校区小中学校連絡協議会

スーパーバイザー：文部科学省初等中等教育局 杉田 洋 視学官

1 はじめに

本校区では、1中学校3小学校（久米中・高城小・北谷小・社小）が連携して23年度より組織を作って共同研究を開始し、校区の子どもの実態から「自信を持って思いを伝え合える子どもの育成」を研究テーマに掲げた。24・25年度は県教育委員会の指定事業「少人数学級を活かす学びと指導の創造事業」に取り組んだ。この事業の中で校区の目指す子ども像・目指す授業像を設定して小中合同の授業研究会や合同研修会などを継続した。3年間の積み上げで授業改善などに一定の成果を得、様々な場面で子どもたちの言語活動の活発化が起りつつある。この成果を発展させ学力向上につなげるために、学校生活のあらゆる場面での言語活動の充実による人間関係の深化、子どもたちの達成感に基づく学習意欲の向上を小中連携してめざしたいと考え、平成25年度末にスーパーバイザー事業の申請を行った。

言うまでもなく学校での人間関係の基本は学級にある。その学級づくりにおいて大きな比重を占めるのが特別活動である。そこで、文部科学省の視学官で特別活動を専門に指導しておられる杉田洋氏にお願いして、1年間様々な形で校区の4校の進むべき方向について助言していただくこととした。

2 研究のねらい

- ①特別活動の重要性について校区4校の教員の意識を高め、実践の改善を図る
- ②校区の子どもの特性に適した特別活動の在り方を研究実践する
- ③特別活動の先進的な実践を行っている県外の学校を視察し校区に情報提供を行う

3 研究内容

(1) 研究の組織

久米中学校区小中連絡協議会

役員会・・・久米中学校・高城小学校・北谷小学校・社小学校の校長・教頭

拡大役員会・・・4校の校長・教頭・専門部長8名

専門部会

校長部会・教頭部会・学習指導部会（研究主任）・生徒指導部会

健康教育部会・人権教育部会・特別支援教育部会・事務部会

※各専門部会に部会長（管理職）と専門部長を置く

(2) 年間の活動の概要

- 5月8日(木) 拡大役員会・・・年間の活動方針・計画の確認
- 6月24日(火) 合同授業研究会・・・特別活動の指導について
- 7月 校区児童・生徒、教職員対象第1回アンケート調査
- 8月12日(火) 夏季合同研修会・・・特別活動を中心にした研修
- 9月9日(火) 役員会・・・第1回アンケート結果の分析
各部会の報告
先進校視察の計画
- 11月下旬 校区一斉ノーテレビデー
- 11月25日(火) 校区同研発表会・・・人権教育を中心に授業公開・協議
- 12月5日(金) 教頭部会視察研修・・・特別活動についての視察
- 12月 校区児童・生徒、教職員対象第2回アンケート調査
- 1月13日(火) 役員会・・・第2回アンケート結果の分析
- 1月26日(月) 校長部会視察研修
- 2月 拡大役員会開催予定・・・年度の反省・次年度計画
- ※全教員が年間1回以上、校区の学校を訪問し授業参観を行う
- ※久米中学校研究主任が月1回各小学校を訪問し、外国語活動の授業支援等を行う

(3) 取り組みの具体的な内容

①久米中学校における特別活動授業研究会(6/24(火))

3年A組の学級活動の授業を校区の先生方に公開し、スーパーバイザーである文部科学省の杉田視学官に指導講評をしていただいた。(別紙学習指導案)



「部活動終了後の下校時間が守れないという実態の改善策」についてペアやグループでの話し合いを取り入れながら検討する授業であった。部活動練習の在り方、下校時刻への意識の持ち方、担当の生活安全委員会の活動、部長の下校時刻についての意識はどうかなど様々な視点から積極的な意見交換ができていた。

杉田視学官からは、「緑豊かな環境の中で育まれてきた教育風土」を大切にしながら言語活動を計画的・組織的に研究し、校区の強みとしていく具体策についてたくさんの助言をいただいた。

日程調整が難しく午前中の研究会となったために校区の小学校からの参加者は少なく管理職が中心であったが、「率直な意見交換をする生徒の姿」について校区の特色に立脚した協議ができ、杉田視学官から「競争原理を取り入れた学級づくりの危険性」

「自己決定と集団決定の区別」などの貴重なご指摘をいただけけたことなど、事後アンケートでの評価が高かった。

②校区小中学校夏季合同研修会（8／12（火））

倉吉交流プラザで校区4校の全教員に呼びかけた研修会を今年度も夏季休業中に開催した。1学期に実施した校区の共通アンケートの結果を中心に今年度の校区連携の取り組みを説明したあと、スーパーバイザーの杉田視学官に2時間以上にわたって講演していただくことができた。

演題は「学力向上、いじめ予防のための学校力・教師力 ～特別活動における集団の教育力の再構築と活用～」であった。

全人教育を目指す日本の学校教育の特色から説き起こし、「ローコスト、ハイパフォーマンスの学校教育を支えている使命感あふれる教員集団」という表現に象徴される講演では、全国各地の小中学校の具体的な実践を数多く紹介しながら、学力の基礎となる自己効力感の育成に関する豊富な示唆をいただいた。特に、話し合い活動の在り方について小中学校での指導でよく見られる例を取り上げて問題点を指摘されたので、特別活動のみならずどの教科・領域の授業改善にでも役立つ助言となった。

写真、ビデオ映像で次々と紹介される学校の児童・生徒の表情・言葉に感動させられ、日常の多忙さの中で意識が薄れがちな「教育職を目指した自分の原点」を再確認させられたという感想が多く参加者から寄せられた。

③校区教頭部会の視察研修（12／5（金））

杉田視学官に紹介いただき、姫路市立旭陽小学校で開催された関西地区の特別活動研究大会に4校の教頭が参加した。8月の研修会で示された特別活動における話し合い活動の実践の積み上げで育つ子どもたちの姿を実際に目のあたりにする機会となった。

特に、寒さの中での朝の集会での集中した姿と適切な言語表現には、子ども自身に考えさせる場面を十分に作ってきたことの成果が明白に現れていた。そのあとの研究授業、研究協議を4名で分担して参加し、研究会の全容を把握して校区各校に情報提供できたことも大変有意義であった。

4 研究の成果と課題

(1) 言語活動の充実につながる動き

特別活動の要ともいえる学級活動における授業の進め方について、スーパーバイザーの指導助言と研修視察で学んだことを4校で共通実践に取り組んでいる。

○学級活動 ①児童・生徒による提案の話し合い活動

（係を決めたり、学級の集会やお楽しみ会の運営など）

「望ましい議題」→「話し合いの柱立て」→「計画委員会による活動計画の作成」
→授業「活動計画の活用」・「教師の適切な指導助言」

○学級活動 ②教師による提案の話し合い活動

（学級全体で解決方法などを話し合い、一人一人に自己決定させる）

「事前の活動(アンケートなど)」→授業「①導入(問題や原因の把握)→②展開(解決や対処の仕方を共に考える)→③終末(解決方法などを自己決定する)」

{ 話し合いの流れがよくわかるように黒板を3等分し、左側に資料や問題点、
中央に原因や理由、右側に対処法や自己決定を書くと効果的 }

こうした取り組みによって、人間関係を見つめ直し、自分たちの諸問題に気づき改善していこうとする意欲が高まってきている。さらに、話し合い活動は教科の学習にも活かされ、校区共通アンケートの「授業中、自分の考えを説明するときに、相手に分かりやすく伝える工夫をしていますか？」という問いに対して、校区全体で74.5%が肯定的な回答をしている。久米中学校では、全校集会で生徒会執行部による呼びかけや連絡、給食時の校内放送、学級の短学活でのスピーチなどで豊かな言語活動が展開されるようになった。6月の研究授業で取り上げた下校時間の厳守をはじめ、学校生活の改善について生徒の主体的な動きの中で問題解決が実現されつつある。さらに、英語弁論全国大会の決勝進出、少年の主張県大会の優秀賞など、素晴らしい成績を収めた。

また、各小学校での実践の成果として、1月に行われた校区の6年生交流会では、人権教育を切り口に例年以上に活発な意見交換がなされていた。

子どもたちの自発的・自治的な活動を充実させるためにも人間関係をより深めていくことが大切であり、計画的・系統的に話し合い活動を実践していくためにも特別活動の年間指導計画を見直す必要がある。

(2) 深まる小中連携

昨年度までの「少人数学級を活かす学びと指導の創造事業」の小中連携組織を活用し、学習指導部（各校の研究主任）と、管理職で組織する役員会で研究の中心となった。

専門部からあがった9項目をもとに校区共通アンケートを作成し、児童生徒の実態を明らかにして、各専門部が2学期からの目標指標と具体策を定め、各校で達成に向けて取り組んだ。学習指導部中心の連携から各専門部・4校全体の連携に広がってきていると感じている。

また、今年度から外国語活動支援で久米中学校の英語教諭（研究主任で特別活動担当）が校区小学校に出かけており、外国語活動だけでなくさまざまな面で情報交換ができた。

スーパーバイザーが「話し合い活動は、積み重ねが大切である。繰り返し実践していくことで表現力が培われていく。途切れると元に戻ってしまう。小中9年間、連携の中で積み上げていくこと」と指導助言いただいたことを小中で確認しあいながら実践を積み上げていきたい。

3年 学級活動指導案

平成 26 年 6 月 24 日（火） 2 限

1. 題材 （学校における多様な集団生活の向上） 「主体的な生徒会活動を進めていくために」

2. 題材設定の理由

特別活動の目標に、「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」とある。今、生徒会が「考動～日常生活が自分を強くする～」という生徒会テーマのもと、朝の元気なあいさつや家庭学習達成率などに意欲的に取り組んでいる。一方で、その達成率はなかなか上がってこず、具体策に行き詰まっている観がある。この 6 月の中央委員会で、三役会から「宿題達成率が全校で 90%以上、元気なあいさつが全校で 70%以上、最終下校時刻を守るということが一週間継続できたら、記念として球技大会を開催しよう」という案を打ち出した。その中でも「最終下校時刻を守る」というものは、マナーではなく、ルールの部分であり、また、守らない気持ちの中には自分が良ければいいという考え方も見えるものである。集団生活を送る上で大切にしなければならないことは何なのかを話し合わせることで、ルールを守る意味を考えさせたい。また、最上級生として学校全体の活動の核になることが自分たちのやるべきことだという実感を持たせるためにも、全校に話し合った結果をアピールさせたい。

3年A組は、おとなしい傾向があるが協力的な生徒が多く、様々な活動を盛り上げようという意欲のある生徒もいる。5月の運動会においては、各自が役割を果たし、クラス一丸となって取り組むことができた。学習や日常生活も比較的落ち着いており、男女を問わず仲が良い。ただ、声をかけ合い高め合おうという気持ちはあるものの、学級をよりよくするために班の係活動などを粘り強く取り組むことは苦手で、活動も活気がなくなりがちである。ある程度秩序のある生活はしているが、積極的に向上しようという姿はあまり見られない。

自分たちの日常生活を振り返り、その中にある考え方の未熟さを見つめ直すことで、生活を向上させる意欲と態度を育てるとともに、全校にアピールすることで最上級生としての自覚や誇りにつなげたい。部活動を引退した生徒がクラスの 3分の1を占める今、自分の進路だけに気持ちが向かうのではなく、最上級生として、自主的、積極的に生徒会活動に参加し、よりよい校風の確立のために活動する実践力を養いたいと考え、本題材を設定した。

3. 学習指導要領との関連

学級活動（1）学級や学校の生活づくり

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

4. 本時のねらい及び評価規準

（1）本時のねらい

言語活動を通じて最上級生としての自覚を高め、直面している課題に対して具体的にどう動くのかを考え実践しようとする態度を育てる。

○人権教育に関する「育てたい資質・能力」

- ・態度 1 1 学校や学級のルールやマナーを守ろうとする。
- ・技能 7 他者の思いや考えを大切にしながら、自分の意見を主張できる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準	目指す生徒の姿
集団活動への 関心・意欲・態 度	楽しく豊かな学校の生活を作るために、 自己の生活の充実と向上に関わる問題に 関心を持ち、日常の生活に自主的に取り組 もうとしている。	①自分たちの学級・学校について関心を持 っている。(事前アンケート) ②考えたことを他の生徒と共有しようと している。(本時・事後)
集団や社会の 一員としての 思考・判断・実 践	楽しく豊かな学校の生活を作るために、 日常の生活の課題について話し合い、自分 たちの現状を把握し、考えを出し合い、判 断し、実践している。	①他の生徒の考えを聞き、よりよい生徒会 活動が行われるように考え、これからの生 活に活かそうとしている。(本時・事後)
集団生活や生 活についての 知識・理解	楽しく豊かな学校の生活を作るために、 自分の課題などを知り、健全な生活の在り 方などについて理解している。	①よりよい学校生活とは何かを知り、理解 している。(本時)

5. 活動の過程

	日時[活 動形態]	生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
事 前	帰りの会 (生徒全 員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材を決める。 ・ アンケート調査し、結 果をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級内の執行部の生徒と学 級会長に、話し合いたい内容 について聞いておく。 ・ 題材について事前に予告し ておき、関心を持って生活を させたり、問題意識を高めて おいたりする。 ・ アンケート結果によりグル ープ分けしておく。 	[関心・意欲] <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査
本 時	6/24(火) (学級生 徒全員)	学級活動(1)[学級や 学校の生活づくり]	「6. 本時の展開」参照	「6. 本時の展開」参照
事 後	他学級・ 他学年へ のアピー ル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 啓発活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な方法を選んで自分 たちの提案をタイミングよく 全校に発信する。 	

6. 本時の展開

段階	活動の内容	形態・時間(分)	指導上の留意点 評価◎	資料等
導入	<p>1 アンケート結果を知らせ、気持ちを共有する。</p> <p>守れない理由</p> <p>1. 友達としゃべってしまう</p> <p>2. 部活が終わるのが遅い</p> <p>3. 片付けや着替えが遅い</p> <p>4. 守ろうとしていない。</p> <p>5. 友達を待っている</p> <p>今回の学活の目的を意識させる。</p> <p>目的<久米中生徒、これでいいのかな。></p>	班 10	<p>・下校時刻は決まっているのに、なぜこうしてしまうのかを自由に話させる。</p> <p>・自分たちの日常生活で、決まりであっても安易な理由で守れていないことがあることを確認し、共感する。</p>	・事前アンケート
2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ下校時刻を守らなければならないのだろう</p> <p>「なぜ下校時刻を守らなければならないか」について考える。</p> <p>・模造紙に箇条書きに書く。</p>	班 15	<p>・「部活停止になるから」という意見から「まわりの人に心配をかけるから」というような意見まで、幅広く出させる。</p> <p>→しばらくしたあと各班にアドバイスをする(机間指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(待っている)家族の気持ち ・PTA立ち番の人の気持ち ・久米中はどんな学校、生徒になる? ・その人は将来どうなる? ・その人やその友達はどうなる? ・地域の雰囲気 <p>◎他者との関わりなども考えながら、テーマについて考え、発言することができる。</p> <p>[思考・判断] 観察</p>	模造紙 ペン
3	各グループの考えを発表する。	個人 5	<p>・発表者を決めて、話し合ったことを報告する。</p> <p>・模造紙を黒板に貼る。</p> <p>・今まで「自分さえよければ」という考えで動いていたことに気づかせる。</p> <p>・少し考えれば、わかることなのに守れていないという現状を共通理解する。</p>	

	4 自分の考えを発表する。	全体 10	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を聞いて、自分の考えを発表する。 ・同じような意見でも、修正したり補足しながら発表する。 <p>◎意欲的に発言し、他の意見も聞いている。 [関心・意欲・態度] 観察</p> <p>◎よりよい学校生活とは何かを知り、理解している。 [知識・理解] 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めに班で話し合った「何でこうなってしまうのか」に目をやらせる。「いかにわがままな理由で守れていなかったのか」に気づかせる。 ・下校時刻だけでなく、他の決まりについても同じようなことが言えるのではないかとすることに気づかせる。 ・自分たちがよりよく変わることで久米中地区がよりよく変わっていくことに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が今日からやることを意識させる。 	
終末	5 今日の学活の成果を学校生活の改善につなげる具体的方策を提案する。	全体 10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>全校生徒で下校時間を守るようにするにはどうしたらいいだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の意識・自覚の向上のためにできることを具体的に考える。 ・全校にアピールする方法を考える。 放送、集会でのスピーチ、ちらし、クラス訪問など、誰に対してどのように呼びかけるのかを考える。 <p>◎話し合っって共通理解したことをこれからの生活に活かしていこうとしている [実践] 観察</p>	